

1-1. 事業概要

2023 年 6 月総会で、4 年間会長を務めた常木康弘前会長から小林秀雄現会長に交代した。同時に役員のおお半数が入れ替わり、新しい体制での JSCA 活動がスタートした。

各種講習会やイベントは、ほぼ新型コロナ感染以前の通りに開催された。本部主催の主なものとして、6 月の構造設計一級建築士修了考査解答例講習会、最新の競技場施設講演会、7 月の JSCA 建築構造士定期講習会、10 月のスキルアップセミナー、11 月の構造デザイン発表会、アイス棒ブリッジコンテスト、2 月の賛助会員技術交流会などが挙げられる。いずれも多くのおお会員・非会員が参加した。また、コロナで中断していた国際活動が再開した。10 月に SEWC2023 が韓国/ソウルで開催され、世界各国から 300 名を超える構造技術者が集まった。2024 年の国際会議開催に向けて、日中交流会と日米協議会の準備会が開催された。

会務としては 2022 年度に着手したホームページリニューアルが完成し 2023 年 1 月に公開となった。多くの人に興味を持ってもらえるようグラフィカルなコンテンツで構成し、また、会員同士が情報発信を行いやすい仕組みとした。今後の JSCA 活動・広報に寄与するように活用していく。会員制度に関して、JSCA と学術分野との繋がりを強化するため、中断していた学術会員の理事会推薦を再開し 2024 年 4 月には 11 名が新学術会員となった。また、若手会員増の施策の一環として、会員数が低迷している学生会員について年会費を無料とすべく規則類を整備した。総会議決を経て実施し、会員数増加につなげるよう周知広報活動を行う予定である。

2024 年 1 月 1 日に能登半島地震が発生し、人的被害をはじめ道路・港湾や多くの建物/木造住宅に被害が生じた。JSCA 賀詞交歓会では北陸部会部会長から発生時の報告が行われた。JSCA としても改めて地震に真摯に向き合い、地震災害の知見を将来の社会構築のために活かすような取り組みを行っていききたい。

2023 年度の重点目標に関する事業およびその他の主要な事業は下記の通りであった。

1) JSCA 中期ロードマップの成果確認および見直し

中期ロードマップで 2022 年度～2024 年度前期は事業項目を実行するステージであり、2023 年度の主な具体的活動は下記のとおりであった。

① 会員増強に関わる事業計画の確実な実践と成果の検証

- ・コロナ終結と事業計画の実践により、2021 年度 69 名、2022 年度 54 名の新規入会者が 2023 年度は 117 名まで回復した。
- ・近年は構造デザイン発表会からの入会者が多数を占めており、2023 年度は 40 名が該当者である。会員増強の面からも継続して開催していきたい。
- ・アイス棒ブリッジコンテストを開催し、社会人チーム、学生チームの 48 チームが参加した。合わせて親子ワークショップを開催し好評を得た。
- ・本部・支部を問わず非会員が参加する講習会・イベントは多いが、直ちに会員増には結びつかない。継続した活動に

より JSCA の良さを伝えることが必要である。

- ② JSCA 建築構造士の価値向上と社会への周知に向けた事業計画の策定
 - ・発注図書に JSCA 建築構造士を記載できないか、官庁発注部署と協議を行った。
- ③ 会員相互の交流を増やし活動を活発化する
 - ・本部と支部の技術委員会の共同開催を再開した。2023 年度は中国支部で開催し、情報交換・委員交流を行った。
 - ・北海道・九州支部で相互に会員が訪問し、意見交換・作品紹介などで交流を深めた。
 - ・中部・関西支部で「東海地方の‘今’を巡る」研修会を合同開催し計 43 名が参加した。
- ④ 技術力・創造力を高める活動・場の提供等により若手の会員増加を図る
 - ・左記に記載の講習会、シンポジウムなどを開催した。

2) カーボンニュートラル社会実現へ向けて JSCA としての活動

- ① 中大規模木造建築の構造設計に係る情報整備
 - ・JSCA 版「木造建築構造の設計」の報告会を開催した。
 - ・中大規模木造建築物の標準的な構造設計、構造計算プログラムの開発支援を行った
- ② 木造関連会社との技術交流及び委員会活動等の活発化
 - ・壁量等の基準見直しに関して国交省との意見交換会を行い、その後にパブリックコメントを提出した。
- ③ JSCA 性能設計【耐震性能編】の普及
 - ・建築学会関係委員会との意見交換会を行った。
- ④ 既存ストックの有効利用についての情報整備
 - ・地球環境問題委員会と木質系部会で意見交換会を行った。

3) BIM 普及・推進へ向けた活動

- ① 構造設計における BIM の普及・推進へ向けた活動
 - ・前年に引き続き、国交省建築 BIM 推進会議および関連部会に参画した。
 - ・JSSC から依頼された BIM 普及動画を作成した。
- ② BIM を利用した品質、生産性向上へ向けた活動
 - ・配筋標準図のデータ化に向けて仕様を作成した。
 - ・特記仕様書のデータ化を行った。
- ③ ソフトメーカーとの JSCA 会員メリットの構築
 - ・会員メリットを打ち出すには至っていない。

4) 継続的な課題とする事業

- ・業務報酬基準が改定され告示 8 号となった。今後の定期見直しに向けて新 WG を発足する。

5) 第 34 回 JSCA 賞

2023 年度の総会において JSCA 賞の発表と賞状授与を行った。その後、同会場にて受賞者から記念講演を行った。受賞者、受賞作品は以下の通りである。

- | | | |
|-----|--------|------------------|
| 奨励賞 | 福田光俊氏 | 「嘉麻市庁舎」 |
| | 宇田川貴章氏 | 「天草市複合施設「ここらす」」 |
| 新人賞 | 黒川 巧氏 | 「早稲田大学本庄高等学院体育館」 |

I. 2023 年度事業報告書 1. 事業報告

上記以外にも様々な事業を行った。詳細は会議報告、委員会活動報告、支部活動報告などを参照されたい。

1-2. 役員／体制

□役員	
会長	小林秀雄（代表理事）
副会長	久田基治（代表理事） 杉浦盛基 中塚光一
専務理事	嵐山正樹（業務執行理事）
常務理事	日野康彦（業務執行理事）
理事	
本部担当	江尻憲泰 大島嘉彦 太田俊也 奥野親正 嘉村武浩 小林真一郎 小林裕明 佐々木直幸 塩手博道 島村高平 原田 卓 山田憲明 渡邊秀幸
支部担当	北海道 山脇克彦 東北 平山浩史 関東甲信越 一條 典 中部 塚越治夫 関西 島野幸弘 中国 村瀬忠之 四国 戸田友一 九州 今林光秀
監事	新宮清志 向山松秀 横山一智
□支部長	関東甲信越 山内哲理 上記以外は各支部担当理事が兼務
□協会顧問	弁護士 服部成太 公認会計士 元森俊雄 前専務理事 福島正隆
□事務局員	職員数4名（うち大阪1名）

1-3. 会員数の推移

年度末	正会員	一般会員	学生会員	賛助会員	名誉会員	学術会員	JSCA 建築構造士	構造設計一級建築士
10	4020	135		227	29	165	2457	※3275
11	3983	131		233	28	163	2249	※3368
12	3925	131	6	230	28	157	2183	※3342
13	3909	129	8	227	26	155	2113	※3355
14	3929	134	7	231	25	151	2030	※3388
15	3910	126	6	235	25	147	1957	※3353
16	3867	122	6	234	29	145	1862	※3342
17	3853	88	10	234	32	143	1785	※3308
18	3803	101	10	237	31	137	1727	※3250
19	3773	111	7	240	34	134	1638	※3205
20	3706	116	6	239	35	128	1576	※3161
21	3609	122	3	239	35	123	1469	※3071
22	3500	114	13	238	34	114	1380	※3000
23	3442	89	7	241	36	111	1200	※2922

※構造設計一級建築士証の写しを添付し、本協会に届け出た会員の数である。